



学校だより

令和 6 年 1 月 9 日

1 月号

学校教育目標
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校



「自分の成長をつぶさにみとる」

校長 加藤 智敏

令和 6 年 1 月 1 日に発生しました地震において被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。依然として予断を許さない状況が続いておりますが、身の安全の確保を最優先とし、ご体調の管理に充分ご留意くださるようお願い申し上げます。被災された地域の日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

保護者・地域・関係諸機関の皆様、本年もどうぞよろしくお願いたします。皆様から学校への温かな支援とご協力をいただき、強い連携の中で、子どもたちは健やかに育っております。心より感謝申し上げます。

暖かさの残る年末年始でした。秋から年末にかけて 80 歳になる父親が大病を患い、見舞いも含めて今年には実家に帰省させていただきました。和歌山市にある実家付近は開発が進み、気をつけていないと曲がり角を間違えて家とは他方向に進んでしまうほどです。大きな店舗が並び、道幅もとても広くなっていました。この日枝小の周囲ももしかすると昔と比べて大きく変化してきているのかもしれないね。地域の方等にお話を聞いてみたくなりました。

高校 2 年生になる息子と私が小学校に通っていた道を歩きました。田舎ですから学校まで 2～3 km 近くあります。橋の欄干に登って手を放して歩いていた話や、友達と下校する際に用水路を飛び越えようとして落ちた話など、横浜ではなかなか味わえないような笑い話をしながら歩きました。その用水路を見に行こうと息子を連れて行ったところ、その時は必死になって飛び越えていた用水路は「え、こんなところを渡ることができなかったのか」と思うような幅でした。自己の成長とはとかく客観視しづらいものです。逆に客観視できたとき、そこに主観とのずれがあると自分の成長をしっかりと把握することができるのではないかと思います。日枝っ子たちはどのように成長してきているのでしょうか。今までも節目節目で、「自分ができるようになったこと」「人のためにできるようになったこと」を振り返るようにしてきました。今年一年、あらためて自分の成長を振り返るような場を多く設け、よりよい成長を促していきたいと考えています。

12 月の学校だよりも書かせていただきましたが、「今住んでいる地域の行事に参加していますか?」「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思いますか?」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか?」という項目で、肯定的な答えが全国の平均を大きく上回っていました。南区の他校の調査結果からは、地域との連携が学力の向上にもつながるとの結果も出ています。郷土の文化を大事にすると、ふるさとを大事にする気持ちをもっと芽生え、子どもたちがこれから生きるための自信や誇りにつながっていくと考えます。さらにみなさんで“心”や“精神”をきちんと育てていくことを大切に参りましょう。

地域が学校経営に参画いただけることでさらに日枝小、日枝っ子は伸びていきます。2024 年も「生き生き日枝っ子」「子どもたちのために人が集える学校」の具現化に向けて変わらぬお力添えをいただけますようよろしくお願いいたします。